

『武士道（新渡戸稲造）』 VERACITY OR TRUTHFULNESS, 第七章 「誠」

VERACITY OR TRUTHFULNESS, without which Politeness is a farce and a show. (信実と誠実となくしては、礼儀は茶番であり芝居である。) "Propriety carried beyond right bounds," says Masamuné, "becomes a lie." (伊達政宗曰く、「礼に過ぐれば諂いとなる」と。) An ancient poet has outdone Polonius in the advice he gives: "To thyself be faithful: if in thy heart thou strayest not from truth, without prayer of thine the Gods will keep thee whole." (「心だに誠の道にかないなば、祈らずとても神や守らん」と誠めし昔の歌人は、ポロニウスを凌駕する。) The apotheosis of Sincerity to which Tsu-tsu gives expression in the Doctrine of the Mean, attributes to it transcendental powers, almost identifying them with the Divine. (孔子は『中庸』において誠を崇び、これに超自然力を賦与してほとんど神と同視した。) "Sincerity is the end and the beginning of all things; without Sincerity there would be nothing." (曰く、「誠は物の終始なり、誠ならざれば物なし」と。) He then dwells with eloquence on its far-reaching and long enduring nature, its power to produce changes without movement and by its mere presence to accomplish its purpose without effort. (彼はさらに誠の博厚にして悠久たる性質、動かずして変化を作り、無為にして目的を達成する力について、滔々と述べている。) From the Chinese ideogram for Sincerity, which is a combination of "Word" and "Perfect," one is tempted to draw a parallel between it and the Neo-Platonic doctrine of Logos—to such height does the sage soar in his unwonted mystic flight. Lying (「誠」という漢字は「言」と「成」との結合であり、人をして新プラトン学派のロゴス説との類似を思わしむるものがあるかかかる高さにまで、孔子はその非凡なる神秘的飛翔をもって達したのであった。)

【第一章】

天の命ずるをこれ性と謂う。性に率うをこれ道と謂う。道を脩(修)むるをこれ教と謂う。道なる者は、須臾も離るべからざるなり。離るべきは道に非ざるなり。是の故に君子はその睹ざる所に戒慎し、その聞かざる所に恐懼す。隠れたるより見わるるは莫く、微かなるより顕わるるは莫し。故に君子はその独を慎しむなり。

天命之謂性、率性之謂道、修道之謂教。道也者、不可須臾離也、可離非道也。是故君子戒慎乎其所不睹、恐懼乎其所不聞。莫見乎隱、莫顯乎微。故君子慎其獨也。

【第十一章】

(A) 誠(なる者)は、天の道なり。

(B) これを誠にする者は、人の道なり。

(A) 誠(なる)者は、勉めずして中たり、思わずして得、従容として道に中たる、聖人なり。

(B) これを誠にする者は、善を択びて固くこれを執る者なり。

誠者、天之道也。誠之者、人之道也。誠者不勉而中、不思而得、従容中道、聖人也。誠之者、擇善而固執之者也。

●博くこれを学び、審らかにこれを問い、慎しみてこれを思い、明らかにこれを

弁じ、篤くこれを行なう。(博学、審問、慎思、明弁、篤行)

●学ばざることあれば、これを学びて能くせざれば措かざるなり。

問わざることあれば、これを問いて知らざれば措かざるなり。

思わざることあれば、これを思い得ざれば措かざるなり。

弁ぜざることあれば、これを弁じて明らかならざれば措かざるなり。

行なわざることあれば、これを行ないて篤からざれば措かざるなり。

●人一たびしてこれを能くすれば、己れはこれを百たびす。

人十たびしてこれを能くすれば、己れはこれを千たびす。

果たして此の道を能くすれば、愚なりと雖も必ず明らかに、柔なりと雖も必ず強からん。

博學之、審問之、慎思之、明辨之、篤行之。有弗學、學之弗能、弗措也。有弗問、問之弗知、弗措也。有弗思、思之弗得、弗措也。有弗辨、辨之弗明、弗措也。有弗行、行之弗篤、弗措也。人一能之己百之、人十能之己千之。果能此道矣、雖愚必明、雖柔必強。

博學




審問




慎思




明辨




篤行




孔子曰、君子有九思、視思明、聽思聰、色思溫、貌思恭、言思忠、事思敬、疑思問、忿思難、見得思義、16-10

孔子曰はく、君子に九思あり。

視には明を思ひ、
明

聽には聰を思ひ、
心 (聰)

色には温を思ひ、
温

貌には恭を思ひ、
恭 (恭)

言には忠を思ひ、
忠

事には敬を思ひ、
上 (敬)

疑には問を思ひ、
問

忿には難を思ひ、
難

得るを見ては義を思ふ、
義